

## 令和2年度第1回 部会報告について

- ◆ 暮らしの安全・安心部会関連 . . . . . P 1
- ◆ こどもの未来部会関連 . . . . . P 5
- ◆ まちの未来部会関連 . . . . . P 7



## くらしの安全・安心部会での主なご意見

### ◆町会加入について

最近、新しい家ができて入ってきてくれるのはありがたいが、町会費を払わない人が多い。防災など、いざというときの共助、助け合いがどこまでできるのか。役所からも「加入してください」というものがあればいいと思う。

基本的には皆さんに町会へ入っていただきたい。それによってネットワークが構築されてお互いに共助という形で、何かが起こったときに助け合いながら暮らしていけるということになる。

区役所でも「町会に加入しませんか」というチラシを作っているの、そういったものを活用しながら町会加入について働きかけをしていきたい。

また地域の皆様におかれましても、そういったチラシもあるので、お声がけいただけたらと思う。

新しくできた集合住宅、マンションはほとんど入り口が施錠されており、何世帯入居されているのか全く分からない状況になっている。

手ぶらで新しい建物に行ってもロックがかかっていて入れない。各連合に、町会の入会を勧めるチラシを連合会長、町会長会議等でいただきたい。

チラシについては連長会でご案内させていただきたいと思う。

本市では、大規模なマンションができるという情報が入ったときには、その建築事業者、不動産業者に対して、町会の案内をさせていただいており、入居者に対しても町会にはこういうメリットがありますよとか、案内していただく仕組みを作っている。

引き続き町会加入について促進していく。

#### ◆ がん検診について

昨年のがん検診受診者の目標が未達成となっている。

また、アンケート結果からも、がん検診を受けない理由として「忙しくて時間がない」というのが2番目に多い。

こうした方のためにも土曜日、日曜日に受診できるようにするとか、そういった工夫はできないか。

保健福祉センターでのがん検診の受診者数が達成できなかった要因としては、1年に1回5つのがん検診が受けられる総合がん検診デーの日が台風で中止となったことが影響したものでしたが、ご提案いただいた内容も参考にさせていただき、今後の受診者増に努めていきたい。

#### ◆ 地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業について

地域における要援護者の見守りネットワークの取組みとして、見守りが必要な方の要援護者名簿への掲載の同意確認・名簿整理があるが、これには、社会福祉協議会の方が大変苦勞されている。

同意確認に社協の方が直接訪問してもセールスマンと間違えられて全然相手にしてもらえないと言っていた。

以前、社協の方から同行を依頼され、一緒に訪問したことがある。

同じように、地域の民生委員、あるいは町会の役員が同行するほうが、名簿をより充実させることができるのではないかと思う。

## ◆「こども地域包括ケアシステム」について

生野区では、こどもたちのために「こども地域包括ケアシステム」を立ち上げ、区役所や学校、事業者、地域、NPO 団体等と連携した取り組みを行っておられる。私もこども食堂で何か力になればということでのぞかせてもらってるが、企画者の方が、なかなかこどもを集めきれない現状があるので区役所にもぜひ協力をお願いしたい。

また、民間の協力、ボランティアでもやりたいという声がいっぱい生野区の中にあると思う。こうした方が参画できる仕組みも作ってほしい。

こども地域包括ケアシステムはこの4月に開始され、子育て専門のコミュニティソーシャルワーカーによる地域への働きかけのほか、それ以外にも掲示板システムを使ってNPO、小中学校、園、生野区役所、社会福祉協議会など全部がシステムの中でつながっている。

現在、参加者の方を募っているところだが、課題など共有できているので、これから情報共有をして困難な事例があれば、相談しあって解決していきたい。

また、生野区では、学校支援ボランティアの人材バンク事業を実施しており、何かお手伝いできないかという方がいれば、こちらご活用いただければと思う。



## こどもの未来部会での主なご意見

### ◆民間事業者を活用した課外授業について

次世代の学校づくりとして、民間事業者を活用した課外授業の「いくの塾」や「みらい塾」があるが、受講者数が非常に少ない。基礎学力を増やすためにも、参加するこどもたちが増えるよう、もっとアピールして欲しい。

また、家庭学習をしていない子もいる、親の協力も必要。学校だけではできないので、親も一緒に協力してもらうよう、アピールしていく必要があると思う。

ご指摘のとおり、受講者定数に空きがある実態があります。

これまでも、学校を通じての案内をさせていただいているが、いただいたご意見を踏まえ、ご家庭も含めてしっかりとアピールし、たくさんの方の生徒の皆さんに活用していただけるよう、取り組んでまいります。

### ◆こどもたちの学習機会の確保について

コロナウイルスが感染拡大している中、授業の遅れや、教職員の消毒作業の疲労感が授業に影響したりするので、「みらい塾」や「いくの塾」のように費用負担が少ない学習機会をもう少し拡充できればいいと思う。

また、経済格差が学習格差になり始めているので、生活困窮家庭のこどもたちの学習権の確保など、行政側の支援をお願いしたい。

#### ◆学び支援事業について

学びの支援事業として、英検や漢字検定などの模擬検定を 19 校下のうち 14 小学校で実施しているとある。

今年度より小学 3 年生から英語教育が入ってきていると思うが、全 19 校下で英検 Jr 等を取り入れていかないと、こどもの英語に対する興味が湧いてこないと思う。英検 Jr を受けることで勉強した結果が見えてくると子どもたちも自発的に勉強しようというようになると思う。

大阪市は校長の裁量をここ数年広げてきていることもあり、各学校の事情に合わせて、優先順位が高いものを選択されているのが現状である。

ただ、これから小学校英語が本格的になっていく中で、英検 Jr を通じ、英語ができる状態で中学校に入るといような学校づくりを中学校単位で考えていくのも良いことだと思うので、校長会へ提案していく。

#### ◆生きるチカラまなびサポート事業について

生きるチカラまなびサポート事業は、「キャリア教育」、「性・生教育」の二本柱で実施されているが、こどもの頃にいろんな経験をし、見聞きすることが、自分の将来やりたいことを見つける、きっかけになると思うので、この視野をもっと広げてあげられればと思う。

この 2 本柱以外に何か増やしていく考えはあるのか。

現在、「キャリア教育」、「性・生教育」をテーマに、36 項目の講座メニューの中から学校からの依頼を受け、講師派遣を行っている。

同テーマについては、学校からのニーズも高まっている状況にあります。学校からのニーズがあれば、他のテーマについても検討していければと思います。



## まちの未来部会での主なご意見

### ◆生野区のものづくりについて

まちの未来は、若い人が住んでくれないと生野の未来はない。生野区のものづくりは、昔の話。ものづくりで生野区を再生しようというのは無理があるのではないか。

あまり後ろ向きな考えではなく、昨年、「ものづくり百景」として100社が集まり完成したのだから、これで終わりではなく、「百景」であっても、いいものがあれば110社、120社と追加していったらどうか。

「ものづくり百景」については、数年かけて、昨年100社がそろい一つの区切りとして完成したものだ。今後は、これらのPR・周知活動を進める中で、100社にこだわることなく、追加できるものがあれば考えていきたい。

また、若い方に対しては、生野区のものづくりを通じて、「自分たちのまちがこんなにいいところなんだ」と気付いていただけるよう、取組を進めていきたい。

この100社のような事業者さんが若い人、特に二世帯とか三世帯の人たちが集まって情報交流しているという話もある。そこから何か新しいビジネスが生まれる、ものづくりが生まれるということも考えられる。

#### ◆ 生野区の魅力あるまちづくりについて

最近、引っ越ししてきた人にその理由を聞くと、利便性の割にはコストが安いと言っていた。また、建築関係の人に聞くと生野区は考えられないほど安いという。だから新しい建売りも売れてきているが、ただ安いという理由だけ。やはり期待するのは、子育て世代が、この生野区で子育てしてみたい、夢が持てると感じてもらい住んでもらえるようになれば生野区は再生できると思う。

「利便性の割に生野区は値段が安い」これも一つの生野区の魅力である。それで集まってきた人たちをいかに地域に溶け込んでもらえるかだと思ふ。

行政に何でもかんでもやってくれと言ってもできるものじゃない。地域に住んでいる人がいろんな知恵を出して、若い人たちを取り込んで、どうしていったらいいかを考えることによって若い世代の人が仲間となって地域を支えてくれると思う。やっぱりこちらからモーションをかけて何とか工夫して、1人でも2人でも取り込むことができれば地域が少しでも活性化すると思う。

お年寄りのことも大事だが、若い方にとって魅力あるまちづくりを考えていただきたい。若い子が来て、何か事業など、そういう形になるものを基本に考えていくのがこれからのまちづくりじゃないかと思う。介護施設などお年寄りが行く施設ばかりなので、若い方が楽しく住まれて、こどもをたくさんつくれるということを考えていただきたい。

生野区はおもしろいまちだと思ふ。長屋など古い建物、路地とかもいいなと思ふところがたくさんある。ものづくりも一時期よりは衰退してきているかもしれないが、若手の方が新しくコラボして、何か面白い格好いい商品が作れないか試行錯誤している。そう

いうところも魅力的だなと思う。お風呂も、格好いい銭湯がたくさんあるなと思う。

4月から大阪に来た女の子に生野区を案内した。その子は今都島区に住んでいるが、古い、自分で工事とかしながら住める建物があったらいいなと言って空き家を見学していた。数としてはまだまだ少ないのかもしれないが、生野区に魅力を感じる若い人がいることは肌で感じている。そういう方々に魅力を届けるためにどうしていくのがいいか一緒に考えて取り組みしていけたらと思う。

#### ◆新型コロナ禍における地域活動について

今、地域活動もできていないし、地域集会も全然開けていない。生野まつりなど色んなものが中止になっている。2月に予定している雪まつりもできるかどうか分からない。正直言って、生野区の将来を考えるのは、今は想像ができない。

地域で100歳体操をしている。3月から6月までは全て中止となったが、皆さんよっぽど外へ出たかったのか参加希望者が多く、7月からは、参加日を第4希望まで聞き、参加者を分散させる工夫をし、終わったら消毒をするという形で実施している。こうした工夫をすれば、少しでもお年寄りが外へ出られるようになるのではないかと思う。

#### ◆地域活動協議会補助金について

今年はコロナの影響で各地域での行事が取りやめになり、補助金を返さないといけないと思っている。できれば、大阪市が認める範囲内で例えばコロナ対策として消毒液など備蓄品を買うとか、そういうことに対しても認めてほしいと思う。

今年度は、活動が十分にできていないとお聞きしているところも多く、補助金については極力使いやすくなるよう見直しをしてきたところである。補助金の活用については、ご相談に乗らせていただくなど支援をしていきたい。

#### ◆広報紙について

広報紙が1,2年前から、がらっと変わった。自分たちで手作りでやっていると聞いてびっくりした。本当に読みやすく、見ただけで明るい感じがする。毎月楽しみにしている。